



暮らしを整える
山の都での時間

やまと暮らし読本

Yamato Life Book

移住者インタビュー

加藤さんご家族/下山さんご家族

山都町ってどんなまち？

山都町概要/教育環境/子育て、医療環境
移住定住の相談窓口/各種補助金

熊本県山都町

移住定住の相談窓口

山の都移住すまいるセンター ☎0967-72-9111

山都町への移住を検討している方から、すでに暮らしている方まで、移住と暮らしを幅広くサポートしています。空き家バンクの紹介や補助金申請の支援、暮らしの相談、移住者同士の交流会の企画などを行っています。ホームページでは山都町へ移住した方々のインタビュー記事も掲載中。移住後のリアルな暮らしを知ることができます。

〒861-3543
熊本県上益城郡山都町上寺1601-4
Email: yamato.smile@machi-y.jp

あなたの移住をサポートします！

山の都移住すまいるセンターは、山都町への移住、定住に関する様々な相談窓口です。ご相談の件数に応じてオンラインミーティングサポートも行っていきます。

ホームページ Instagram

山都町役場 まちづくり課 ☎0967-72-1158

山都町空き家バンク制度

空き家バンクは、山都町への移住や定住を希望する方に向けて、町内の空き家情報を紹介する制度です。利用希望者は、借りたい・買いたいといった条件に合わせて物件情報を閲覧・登録し、住まい探しを進めることができます。空き家の有効活用を通じて、移住希望者の住まい確保を支援することを目的としており、山都町での暮らしを具体的に検討するための第一歩として活用されています。



空き家バンク制度

短期滞在施設

山都町への移住を検討する方が本町の暮らし心地や土地の魅力を体感するために最長で一年間滞在することができる施設です。



短期滞在施設

各種補助金

空き家改修等支援事業補助金 空き家バンクを通じて契約が整い入居者が決定した物件に対して 改修費用の4/5以内を補助 上限額100万円 ま	定住支援住宅取得補助金 町内で中古物件を購入または新築物件を建てる場合 費用の1/2を補助 上限額100万円 ま	空き家家財等撤去支援事業補助金 空き家の家財等の処分及び運搬経費に対して(空き家バンク登録物件に限る) 費用の1/2を補助 上限額10万円 ま
浄化槽設備整備事業補助金 町内に居住する方が住宅に浄化槽を設置する場合 5人槽 332,000円 7人槽 414,000円を補助 10人槽 548,000円 水	事業所改修等支援事業補助金(起業支援) 町内での起業に要する施設整備、設備又は備品等の取得に対して 施設・設備それぞれ費用の1/2を補助 上限額75万円 商	住宅用薪ストーブ等設置費補助金 町内の住宅に薪・ペレットストーブ等(ボイラー)を設置する場合 設備工事費の1/2以内を補助 上限額20万円 水
新規就農者育成総合対策(経営開始資金) 就農直後の経営確立を支援 最大150万円/年(最長3年間) 農	ま まちづくり課 ☎0967-72-1158 水 環境水道課 ☎0967-72-4002 商 商工観光課 ☎0967-72-1115 農 農業振興課 ☎0967-72-1136 ※詳細は担当課にお問い合わせください	

阿蘇山麓のまち
山都町
 YAMATO-CHO KUMAMOTO/JPN
 発行:山都町役場
 〒861-3592 熊本県上益城郡山都町浜町6番地
 TEL 0967-72-1111 FAX 0967-72-1080
 発行日:2026年3月



家族ファーストで

自然とともに生きる



2024年8月に移住
加藤 洋平さん / 有紀さん
碧馬くん(長男)/弦くん(次男)/美季ちゃん(長女)

山都町で始まった、家族の新しい暮らし

便利さの中で芽生えた暮らしへの問い

移住前は、熊本市東区で暮らしていました。便利さに囲まれた生活の中で、ふと立ち止まったときに浮かんだのは、「このままの環境で、子どもたちは本当にのびのび育っているのだろうか」という思いでした。きれいな空気の中で、季節の移ろいを感じながら育つてほしい。安心、安全な食と住まいを、自分たちの手で選びたい。そんな気持ちで、少しずつ家族の中で共有されていきました。

決め手は家と人との出会い

移住先としては、熊本県内の自治体を色々検討しました。その中で山都町を訪れた際に「山の都移住すまいるセンター」を通して出会ったのが今住んでいる築15年ほどの家でした。古いけれど丁寧に入れられた住まいと、穏やかで温かい大家さんとの出会い

が、「ここなら暮らしていける」という確かな安心感につながりました。良い意味で田舎でありながら、生活の不便さをあまり感じなかったことも、背中を押してくれた理由のひとつです。

不安もあったからこそ見えた安心

山間地ならではの冬の寒さや、子どもたちが新しい環境に馴染めるのかといった不安がなかったわけではありません。特に、初めて迎える冬を前に、想像以上に寒かったです。それでも、実際に暮らしました。それでも、実際に暮らし始めてみると、毎日保育園や小学校に行くことが楽しみで仕方ない様子の子どもの姿に、親として何度も救われました。寒さにはまだ慣れない部分もありますが、それも含めて山都町での暮らしなのだ、今では前向きに受け止めています。

自然のそばで育つ時間と、これからのこと

地域に見守られる古民家での暮らし

現在は、畑のある一軒家で暮らしています。家の中に残る大きな梁や、長い年月を感じさせる佇まいは、この土地で積み重ねられてきた暮らしの歴史そのものだと感じています。地域の方々は、子どもたちが安全に過ごせるようにと転落防止のための保護用ネットを張ってくださったり、さりげなく声をかけてくださったりと、距離の近すぎない、けれど確かな温かさでいつも家族を見守ってくれています。

自然が育てる子どもたちの心と体

自然がすぐそばにあることで、子どもたちの毎日は大きく変わりました。夏の朝は、目を覚ますとそのまま庭に出て虫を追いかけ、冬には雪によるこびり、触りに外へ飛び出していきます。以前の暮らしでは考えられなかった光景です。以前は家の中で大人しく遊ぶこと

家族の時間を取り戻し広がる挑戦

を好んでいた次男ですが、山都町に来てから外で過ごす時間が増えたことで体力が衰えていただけでなく、アトピーの症状も少しずつ落ち着いてきました。きれいな空気と山の水が、子どもたちの体と心を静かに整えてくれているように感じています。

仕事中心だった生活にも、少しずつ変化が生まれました。忙しさに追われる日々から、家族で過ごす時間を大切にできる暮らしへ。有紀さんは、自分の趣味に向き合う時間を持つようになり、洋平さんも農業の勉強など、以前からやってみてきたことに挑戦しています。竹や土づくりを学びながら、地域資源を循環させる持続可能な農業に取り組み、これからは家族ファーストで、自然を楽しみながら山都町での暮らしを続けていきたいと思っています。



山都町への移住を考えている方へ

自然が好きで、静かな環境で子育てをしたい方には山都町はとても向いている場所だと思います。移住はとても勇気のいる選択ですが、ビビッときたときが動き出すタイミングだと思います。一度きりの人生で、子どもたちに何を残したいのかを考えたとき、その答えを探せる場所が、ここにはあります。



夫婦で就農。 山都町で育てる 仕事と家族の時間



2023年7月に移住
下山 航平さん / 由紀さん
朔くん(長男)

家族と地域に支えられる日々、そして未来へ

地域に迎え入れられる暮らし

現在は、由紀さんの職場のつながりで紹介してもらった空き家に暮らしています。地域では、お花見やどんどや、ゴルフのコンペなどの行事が今も大切に受け継がれており、少しずつ顔見知りが増えていきました。入居する前に「山の都移住すまいるセンター」のサポートを受けながら、町の補助金を活用して玄関や畳、ふすま、給湯器を整備し、住まいを自分たちの暮らしに合う形に整えています。

子育てと日常にある
ささやかな豊かさ

山都町ではじめての子育てについて、由紀さんは「支援が手厚くて心強い」と話します。保健師さんが親身に話を聞いてくれることで不安が解消され、安心して子育てができています。近所の人や息子に会いに来る度に野菜をおすそ分けしてくれるので、それらの

食材をどう料理するか考える時間も、今では楽しみのひとつになっています。

家族で歩む
これからの暮らし

2026年3月からは、夫婦で就農予定。ピーマンと里芋の栽培に挑戦します。息子が寝た後、二人で夜な夜な事業計画を話し合いながら、資金のことや農機具のことなど、ひとつひとつ確認し準備を進めてきました。考えることは多く、不安がないわけではありませんが、それ以上に「家族で農業を始める」という未来への楽しみが大きくなっています。

これからは、暮らしと仕事がつながりになる日々。畑で育てた作物を収穫し、自然の変化を感じながら過ごす時間が、家族の会話や学びにつながっていくはず。息子にも、農業や自然が身近にある暮らしを、当たり前ものとして伝えていきたいと考えています。

「ここで農業をしたい」と思えた理由

直感から始まった夫婦での就農への道

由紀さんは、以前から「農業がしたい」という思いを持っていました。自分が農業をするなら山都町がいい。理由を言葉にするよりも先に、心がそう決めていたと言います。そんな中で農業大学校に進学し、出会ったのが山都町出身の航平さんでした。「山都町で農業をしたい」という由紀さんの想いと「いつかは実家を継ぎたい」という航平さんの気持ちが重なりふたりは自然と同じ方向を向くようになりました。

航平さんは、矢部高校の食農科学科、農業大学校で畜産や堆肥づくりなどを学ぶ中で、農業への思いを強めてきました。一方で実家の農業は、父親がまだ現役だったためすぐに就農するのではなく、一度は企業に就職しました。社会に出たことで、農業の厳しさや覚悟の必要性をより現実的に考えるようになり、「自分のタイミングで、しっかりと準備をして農業を始めた

い」という思いが固まっていきました。

原風景になった
棚田との出会い

移住を意識する中で初めて山都町を訪れた際、由紀さんの心に強く残ったのが、稲刈り前の棚田の風景でした。山あいに広がる田んぼと、静かな空気。その景色を前に、「ここで暮らしたい」「ここで農業をしたい」という気持ちが、よりはつきりとしたものになりました。

移住前は、店の数が少ないことや営業時間の短さに不安を感じていました。しかし、実際に暮らし始めてみると、以前ほど頻繁に買い物に行かなくても困らないことに気づきました。必要なものを考えて暮らすことで、日々の生活がシンプルになり、時間にも心にも余裕が生まれています。



山都町への移住を考えている方へ

山都町は人との距離が近く、日々の暮らしの中で自然と会話が生まれる町です。その分、自分がどんな暮らしをしたいのか、どんな生き方を選びたいのかを、しっかり考えることが大切だと感じています。人と話すことが好きで、自分なりの軸を持って暮らしたい人にとっては、きっと居心地のよい場所になると思います。



教育環境

小学校・中学校

教育委員会 ☎0967-72-0443

小・中学校では、家庭や地域と連携し、地域の歴史・文化・自然などの資源を活用した教育活動を推進しています。学校給食では地元農産物を活用した地産地消を進め、農業への理解を深める学習に取り組んでいます。

【通学支援】

山都町は面積が広大なため、学校までの通学が遠距離となる地域もあります。遠距離通学となる児童や生徒には、スクールバスの利用または通学に要する費用(自転車購入等)の助成も行なっております。※通学支援の対象になるかどうかは事前の確認が必要です。

熊本県立 矢部高等学校

【矢部高校生徒・保護者への支援】

町では、矢部高校への進学奨励として入学支度金及び教科書購入等について助成を行っています。また、下宿助成やバス通学助成も行っております。平成31年4月には地元NPOによる学生寮が開設されました。

食農科学科

食農科学科では野菜や草花の栽培をはじめ、農産物の食品加工などの実践的な学習を行います。また、調理や被服の技術習得や保育、福祉の学習にも取り組んでいます。

林業科学科

林業科学科では森林や林業、自然環境の保全を学び、測量や木工、森林の管理技術などを習得します。また、八朔祭の大造り物製作にも取り組んでいます。

普通科

普通科では高い学力や幅広い知識を身につけ、進学や公務員などに進路選択が可能です。商業科目も学習でき簿記検定などの資格取得にも取り組んでいます。



矢部高等学校
ホームページ

矢部高等学校
instagram

子育て、医療環境

保育園

健康福祉課 ☎0967-72-1229

公立保育園 5園

【受入年齢】0歳～就学前
【開所時間】7:30から18:30/19:00
◎延長保育可能
◎給食あり
◎一時保育あり

私立保育園 3園

【受入年齢】0歳～就学前
【開所時間】7:30から19:00
◎バス送迎あり(1園) ◎延長保育可能
◎給食あり
◎延長保育あり

幼保連携型 認定こども園 2園

【受入年齢】0歳～就学前
【開所時間】7:30から18:30/19:00
◎延長保育可能
◎給食あり
◎一時保育あり

子育て支援

健康福祉課 ☎0967-72-1229

子ども家庭センター	妊娠準備期から出産子育て期までの様々な相談を受け付けています。子供に関わる総合相談窓口です。	山都町産後ケア事業	安心して子育てできるよう産後のサポートを行っています。
山都町子育て支援センター	育児の不安・悩みなどの相談を受け付けたり、子育てセミナーなどを開催し、子育ての応援を行っています。	子ども医療費助成	新生児から18歳の年度末までの医療費助成を行っています。
山都町ファミリーサポートセンター	「子育ての手伝いをしてほしい人」と「子育ての手伝いをしたい人」との相互援助活動を行っています。	出産祝い金	出生時の親御様に対し、出産祝い金を給付します。

医療機関

診療時間などの詳細は、各医療機関にお尋ねください。

救急告示病院: 山都町包括医療センターそよう病院

病院・クリニック: 矢部広域病院、瀬戸病院、伴クリニック、野田医院、高田整形外科クリニック

歯科医院: せいわ歯科クリニック、豊田歯科医院、野田歯科医院、浜町歯科医院、どうのうえ歯科クリニック

※町内に産科はありません。近隣市町の産科医療機関については、役場 健康福祉課(☎0967-72-1229)までお問い合わせください。

山都町ってどんなまち？

山都町概要

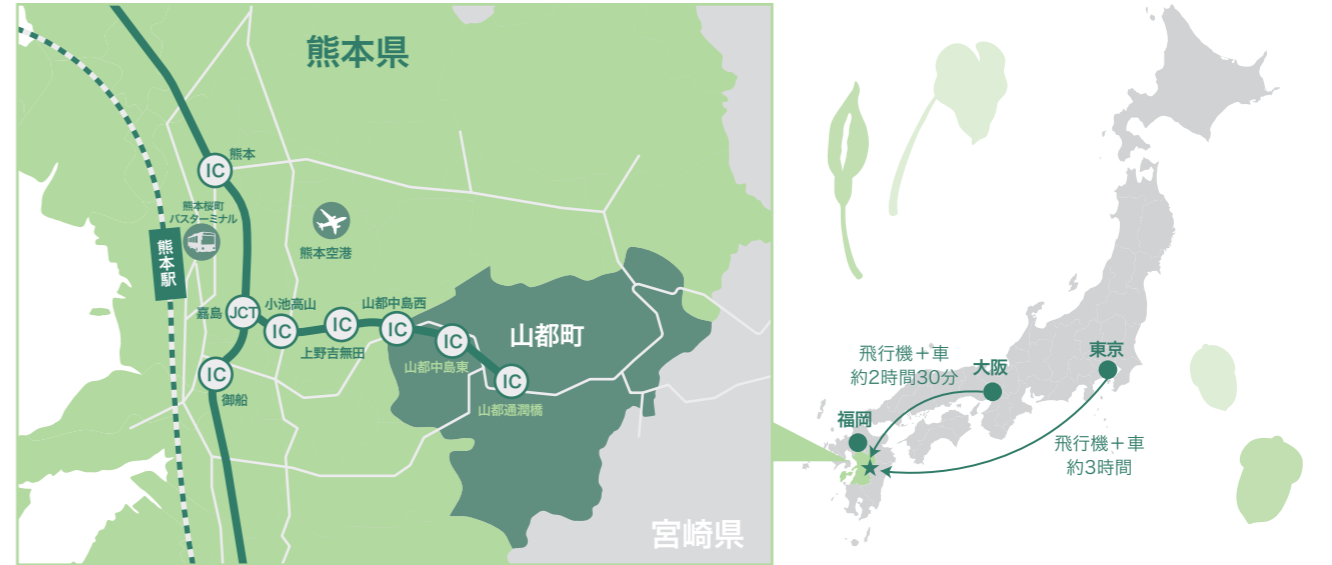


国宝

▲通潤橋 石造りアーチから勢いよく水が吹き上がる、日本を代表する水路橋

地勢

山都町は熊本県の東部、九州のほぼ中央に位置する町です。阿蘇南外輪山や九州脊梁の山々に囲まれ、山から生まれた清らかな水が川となって町を流れています。渓谷や滝、棚田など、自然の表情が身近に広がり、山や川を生かした散策やレジャーを楽しめるのも山都町の魅力です。四季折々に変わる風景の中で、自然とともにある暮らしが息づいています。



山都町までのアクセス

- 阿蘇くまもと空港から車で40分
- 熊本駅から車で1時間
- 熊本桜町バスターミナルからバスで1時間30分(熊本バス)
- 熊本市中心部から車で1時間(山都町役場本庁まで)

有機JAS認証事業者数が日本一多い
「有機農業全国No.1のまち」です!

産業

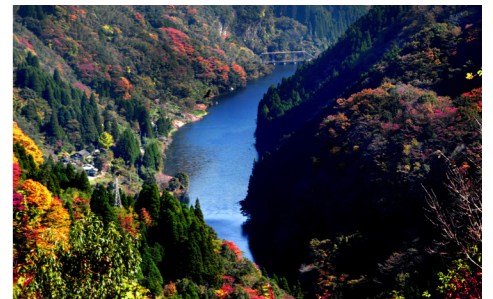
起伏のある土地条件の中でも水を大切に知る知恵が受け継がれ、農業を中心とした暮らしが育まれてきました。国宝・通潤橋に代表される水の文化と棚田の風景は、今も山都町の暮らしを支えています。

気象

居住地の標高は、3000~9000メートル。夏は涼しく、冬は冷え込みが厳しい高冷地で、熊本市内よりも年間を通して気温が低くなっています。はつきりとした季節の移ろいを感じられる気候です。



▲清和文楽 人形と語りが織りなす、伝統の人形浄瑠璃



▲蘇陽峡 「九州のグランドキャニオン」と呼ばれる深谷美



▲八朔祭 自然の素材からできた迫力ある大造り物が練り歩く祭り